

## 区民の願いで実現した 自然エネルギー施設は宝もの ～20周年に寄せて～ 初代委員長 飯田和子



2003年2月、区民の願いから麻生区役所屋上に太陽光発電施設が設置されました。今から20年前には、まだ地球温暖化による猛暑、台風、洪水、山火事などの自然災害は現在ほど顕著に現れていませんでした。しかし、麻生区は、将来を見据えて区制20周年事業として、地球温暖化防止のための太陽光発電施設の設置を決めました。区長をはじめとする方々の先駆的な判断により、他区では見られない事業となりました。

### 【実行委員会の立ち上げ】

2002年7月、「麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会」が立ち上がりました。委員会には、区民の他、行政から環境局や市民館職員、特別養護老人ホーム園長などが集まり、どのように普及啓発するかについて当時の区政推進課を中心にコンサルも交えて検討しました。この年度には「私たちのまちでも自然エネルギー」という3回シリーズの催し(イベント「おひさまと遊ぼう」、バス見学会、講演会)が企画・実施されました。この3つの普及啓発の形は現在にもなお継承されています。2003年2月15日、設置を祝う点灯式に引き続き開催された記念講演会は、飯田哲也氏による「自然エネルギーと本当に豊かな社会」でした。

### 【委員会の活動】

期待に応えようと委員会は、さまざまな事業を企画し実施しました。2003年度からの主な事業を記します。

・**設置記念イベント**は、その時の先端をいく講師を招いての講演会をメインとしていましたが、工夫を凝らし、ある時は「麻生芸術のまちコンサート」とコラボし「おひさまコンサート」を実施しまし

### Contents

- 1 区民の願いで実現した自然エネルギー施設は宝もの～20周年に寄せて～
- 2 麻生区クールアース推進委員会メンバー紹介④
- 3 夏休み環境教室「ソーラーエコハウスを作ろう！」
- 4 2022 里山フォーラム in 麻生に参加しました
- 4 環境講座、出前します！
- 4 編集後記～1.5℃の約束！直ちに気温上昇を止めよう!!～

た。またある時は、世界や日本の先進事例を紹介する映画上演も。幅広い方々と感動を共にすることができました。その間、2011年3月11日には東日本大震災が発生し、世界・日本全体ではエネルギーや原発に関する関心が強まってきました。

・**あさお自然エネルギー学校**は、委員自身の自然エネルギーへの理解を深めるための、学習会としてスタートしましたが、世の中では次々と新しい事態が発生し、それをひも解くために講演会として定着しました。この「学校」と「記念イベント」は、区民との開かれた対話の機会となり、その結果、委員会の血となり肉となったと思います。

・**小学校への環境出前授業**には特別に力を注ぎました。自然エネルギーボックスやソーラークッカー、手回し発電機などの手持ちの機材を持参。温暖化についてパワーポイントを使って話す座学の後には、校庭で児童自身が手で触れて体験できる学習を繰り返しました。未来を担う子どもたちとの楽しい時間でもあり、委員会として大変やりがいを感じました。

・**保育園でのパネルシアター**は、小学校での延長として企画されました。

・**夏休み環境教室**は、夏休み自由研究のお手伝いになればと、ソーラークッカーやペットボトルの風力発電機、ソーラーエコハウスなど、温暖化と自然エネルギーについて考える機会としています。

・**「おひさまと遊ぼう」**は、初めは区役所広場で体験型イベントを開催していましたが、南口ペDESTリアンデッキに移動して



2003年2月15日 点灯式



点灯式後の施設見学会

通り行くたくさんの市民に呼びかけるイベントとしました。近年は区民まつりや子育てフェスタなど区役所事業に参加する形で実施しています。

- ・ニュースレター「おひさまだより」は委員会活動を記録し委員会の歴史を見ることが出来ます。
- ・自然エネルギー施設バス見学会は、大型バスで近郊の自然エネルギーをめぐる旅。例えば、足利工業大学の風力発電など、神奈川では柿生水力発電所、宮ヶ瀬ダム、小田原市、川崎市臨海部の先進的な事例など、さまざま施設を見学、学習しながら区民と交流しました。

しかし、2019年度末から、コロナの感染拡大のため普及啓発活動が制限され大きなダメージを受けました。それにもめげず、zoomによる講演会や環境教室などは、参加人数を減らして実施しています。

### 【20年を振り返る】

委員会名称は、前半は、「麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会」でしたが、東日本大震災という歴史的な出来事を経て、後半には名称を「麻生区クールアース推進委員会」と変更しました。

委員(市民)といっても様々ですが、共に知恵を出し合って企画し、力を合わせて実施しています。全くのボランティアで、骨身惜しまず努めていることに対して市民として誇らしく思います。今年2022年度4月から「事務局」が区役所地域振興課から委員会に移るという大きな変更がありました。市民も行政も、それぞれの持てるものを生かしての協働事業であるという基本は変わりません。

### 【脱炭素社会にむけて】

20年はあっという間でした。その間地球温暖化の状況は予想を超えてすさまじい勢いで厳しさを増しています。国

や川崎市の政策も徐々に進んでいますが、私たちの社会は大きく転換する必要があるといわれています。時には無力感に陥ることがありますが、20年間に活動を支えた人々に乾杯です。

地球上のさまざまな生き物は網の目のように繋がって生きています。人間はその一つに過ぎないのに、森を切り拓き、自然破壊をした結果、それまで住み分けていた生き物と接触の機会が増えてしまいました。森深くに住んでいた新型コロナウイルスは人間世界に移ってきて世界的な感染拡大を起こしたといわれます。経済活動や気候変動による生態系の破壊、人の移動が感染拡大の要因と、高村ゆかり氏は講演会で語っています(2021年7月10日)。

さらに、世界では戦争などしている場合ではないのに、起こってしまったウクライナ戦争。今後エネルギー資源をめぐってどのように世界を変えていくのか、暗雲が垂れ込めているように見えます。しかし化石燃料への依存をやめて足元にある自然エネルギーを使えばいいでしょう、と未来の道を指し示す機会ととらえることもできます。

### 【「あそこにもここにも自然エネルギー！」をめざして】

うれしいことに、この2022年9月に麻生区役所隣の市民館・図書館の屋上に市民出資による太陽光発電設備が設置されました。併せて自然エネルギーの普及啓発を進められたらいいと思います。あそこにもここにも自然エネルギーの活用が見られる地域をめざして。

数多くの方々と出会い、素晴らしい経験でした。今、委員会は若返っています。本当に頼もしい方々です。麻生区の「宝もの」を次世代が引き継いで活動を進めてくださることを切に願っています。

## 麻生区クールアース推進委員会 メンバー紹介④

麻生区在住17年目になります。昨年秋に還暦を迎え会社を定年退職しました。気候現象が近年とても激甚化していると感じていたため、地球温暖化対策には関心がありましたが、が、仕組みをきちんと知るために気象予報士試験に取り組んでいます。

そんな中で、今年2月にこの委員会主催の講演会に参加したところ、推進委員を募集していると知ったので参加しました。今は、いろいろなイベント企画に取り組んでいます。8月に開催された夏休み環境教室での講座説明を担当したことは印象深く、参加者にいかに理解してもらうかに心を砕きました。

これからもこの調子で積極的に取り組みたいと思いますので、宜しくお願いします。



森脇厚一郎



小林知江

昨年お誘いを受け、参加しました。日々、他のメンバーの方々の熱い想いに刺激を頂いています。私が生活する上で先ず疑問を持ったのは、食の問題です。食品添加物や遺伝子組み換え、国内自給率低下、マイクロプラスチックなど様々な問題に気づき、現在は地球温暖化や近年多発する自然災害に関心があります。温暖化対策の一つは省エネと電気の選択です。再生可能エネルギーを選択することで、温室効果ガスの排出を減らすことができます。再生可能エネルギーを選ぶ社会を目指して、明るい未来のために、できることを考えてみませんか？

## 夏休み環境教室「ソーラーエコハウスを作ろう！」

8月11日(木) 麻生区役所第1会議室にて開催



2013年より、「ソーラークッカー」、「ペットボトルで作る風力発電機」など、夏休み自由研究を視野に入れた、自然エネルギーを体感できる工作中心の環境教室を行ってきた。しかし、コロナ禍のため一昨年は中止、去年はオンラインのみだったが、今年度は久しぶりに対面で開催した。テーマは、太陽光発電とその蓄電に着目し、初めて「ソーラーエコハウス」とした。

16組の募集に対して112組と非常に多くの応募をいただき、とても嬉しかった。一方で、コロナ禍での密防止と工作への充実した支援の点から、委員会OB3名の応援を得たものの、8組増枠にとどまったのは委員一同残念でもあった。委員会としては、参加者に理解していただけるよう講座内容の見直しや手順のリハーサルを重ねて準備し、当日は親子兄弟20組48人を迎えて開催した。

### 1. 受付・着席・挨拶

9:45 受付開始。検温・消毒のち参加費を納めてから入室してもらった。席には事前に資料と工作キットが置かれている。

10:00 司会者の開会宣言のあと、児嶋委員長と麻生区役所地域振興課から挨拶を行った。

### 2. 講座「自然エネルギーって何だろう？」

20分間と短い時間ながら、「地球温暖化って聞いたことある？」と、子供たちに手を挙げてもらい興味をひきながらの講座だった。

「地球上で何が起きているのかな？」と呼びかけ、身近な猛暑、大雨、台風から始め、北極圏の海水の縮小とその生き物への影響、氷河の縮小と海面上昇、森林火災を写真を使って分かりやすく紹介した。

その後、地球温暖化の原因とこれまでの歴史をグラフで示し、今後の気温上昇の予測と世界の国々の最新の話し合い内容を説明した上で、日本がもっと自然エネルギーへのシフトを進めなければならない状況であることを伝えた。

自然エネルギーについては、どのような種類があるかを紹介したが、工作に関わる「太陽光発電と蓄電によるそのうまい活用」を特に詳しく説明した。

今回の担当委員は初めての講師体験であったが、

当日は落ち着いて参加者に話しかけ、時間配分も良くて、反省会では賞賛の声が上がった。

### 3. 工作「ソーラーエコハウス 太陽光で発電！」

10:30 より工作手順や注意点の説明の後、各々工作を始めた。

委員会スタッフは、全体指導に1名を置き、その他11名がそれぞれ2組(テーブル)を支援できるように配置された。どの参加者も時間内に組立を完了し、スタッフの手を借りずに独力で完了させる組がほとんどだった。

余裕のある子供は、好きな絵を描き、個性豊かなエコハウスに仕上げている。

### 4. おもちゃ紹介&屋上見学・実験&クイズとまとめ

11:05 ソーラーおもちゃやソーラークッカーを紹介し、いつもは上がれない屋上に移動した。太陽光で動くおもちゃに興味津々の子供たち。屋上の太陽光発電設備を見たあと部屋に戻って、クイズをしたり元気に手を挙げて質問してもらったり、今日学んだことをみんなで復習した！

### 5. 参加者アンケート(抜粋)

- ・1年生：こんな楽しいイベントに来てうれしかったです。家を作るのが楽しかった。
- ・2年生：地球が暑くなりすぎるとシロクマとか家が沈んでしまったりして困ってしまうことがよく分かりました。
- ・3年生：ソーラーエコハウスを作って、可愛くできたし、自然エネルギーについてよくわかったので、来てよかったなと思います。
- ・保護者：麻生区で自然エネルギー推進活動をされていることや、柿生水力発電所の存在を初めて知ることが出来て良かったです。

### 6. 最後に

今回は4月に入会の委員が講師を務め、今までのパワーポイントをバージョンアップ！当日の配布資料のプログラムや活動紹介のデザインが若い委員の感性で新しく作られ、この会の世代交代が順調にいと感じた。参加者アンケートの意見も生かし、次年度の境教室も委員みんなでがんばりたいと思う。  
(井上正樹記)



## 2022 里山フォーラム in 麻生(第21回) に参加しました

—みどりを守る・環境を守る・いのちをはぐむ—



新百合 21 ホールに、3月21日(月・祝)麻生区の緑や環境を守る活動をすすめる34の団体が集まりました。例年のような小学生の発表、ワークショップ、障がい者施設の皆さんによるティータイムやグループ討議などは行なわれませんでした。パネル展示、団体の活動発表などから、コロナ禍でも途切れることなく活動を続ける様子を知る事ができました。

私はこのフォーラムに初めて参加し、麻生区には多摩川流域と鶴見川流域があり、流域ごとに様々な団体が活動していることが分かりました。また、地域の皆さんと連携しながら、様々な視点で環境を守る活動の大切さを実感しました。(松下彰子記)

### 環境講座、出前します！

昨今、「かつて経験したことのない」と形容される集中豪雨が頻発し、河川氾濫のニュースが日本全国から聞かれるようになりました。猛暑日を通り越して、酷暑日などという言葉も生まれています。世界に目を向けてみると、山火事や大干ばつ、氷山の消失など、地球温暖化に起因する異変が起きています。

私たちや次の世代を担う若者たちにどのような未来が待っているのでしょうか。

地球温暖化や自然エネルギーのことを理解し、今私たちがどのように生活していけばいいのか、一緒に考えてみませんか。(林恵美記)

### 「環境講座」 開催しませんか？

麻生区クールアース推進委員会では、自治会や市民グループなどに、出前講座を行っています。当会事務局あて、お気軽にご相談ください。



チラシをリニューアルしました

麻生区クールアース推進委員会事務局  
林恵美 □emi814@sound.ocn.ne.jp



### 編集後記

#### ～1.5°Cの約束！直ちに気温上昇を止めよう!!～

世界気象機関(WMO)は5月9日、世界の平均気温が産業革命前と比べて一時的にも1.5°C上昇する可能性が2015年時点ではゼロ、21年では10%で、22～26年には50%に増大していると警告した。“1.5°C上昇”は気候変動の影響が人間と地球にとって有害となる指標で、すでに2021年には1.1°C上昇し、このままでは今世紀末には3.2°Cの上昇という取り返しのつかない事態が見込まれる。

5月18日には、世界の海水面が2013～21年の年間平均で4.5cm上昇、過去最大幅で、2002年までと比べ上昇幅は2倍だと公表した。しかも海洋の温度と酸性度も最も高かったという。温暖化により氷床の溶解が加速し、CO<sub>2</sub>の海水への吸収量が増えた結果だ。海洋は地球に

溜まった熱の約90%、CO<sub>2</sub>の約23%を吸収しており、今後さらに吸収量が増え、元に戻すには数百年から何千年とかかる可能性が高い。

頻繁となった熱波や山火事で、大気の質が低下し、人体や生態系に被害を及ぼしている。サンゴ礁の白化だけでなく、野草の減少、花の蜜も65%減り、ハチも全種の25%が減ったと言う。果実や作物のみならずサンマなどの魚の供給にも危機が迫っている。

京都府は「新建築物に太陽光パネル装置設置を義務付ける」とし、東京都と川崎市も同様の条例案を公表した。川崎市は2023年にも実施の意向である。脱炭素をさらに加速したい。(児嶋脩記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会(委員長 児嶋脩)  
編集担当 : 飯田和子、児嶋脩、小林知江  
問合せ先 : 事務局 林恵美  
Tel/ Fax : 044-299-6460 E-mail : emi814@sound.ocn.ne.jp  
発行日 : 2022年10月25日



※2022年4月から、事務局は麻生区役所地域振興課から委員会に移行しました。